

しもの診療所だより 12月号

今月は、咳喘息のお話です。咳喘息は、慢性的に咳が続く気管支の病気です。一般的な喘息と同様、気道が狭くなり、いろいろな刺激に対して過敏になって、炎症や咳の発作が起こります。咳喘息にかかると、一カ月以上、空咳が続きますが、喘息に見られるゼイゼイ、ヒューヒューといった喘鳴や呼吸困難はありません。また、発熱や痰（たん）などの症状はほとんど出ません。

夜中から明け方に激しい咳が出たり、寒暖の差や喫煙で咳が出やすくなるのが特徴です。のどにイガイガ感を伴うこともあり、長話をした際、のどが渇いたり枯れたりもします。咳の発作が激しい場合は、胸の痛みを感じたり、嘔吐、失神したりすることもあります。

咳喘息は、喘息の前段階ともいわれています。咳が続いているのはかぜが長引いているせいだろうと、かぜ薬や抗生物質、咳止めを用いても、咳喘息の場合はほとんど効果がありません。咳喘息の治療には、気管支拡張薬（気管支を拡張させて空気の通り道を広げる薬）や吸入ステロイド薬を使います。かぜは治ったのに咳だけが長く続く場合は、咳喘息の可能性があるので受診をお勧めします。

しもの診療所 院長 川井 祐輔